

私もあなたもできる人助け

阿久比町立阿久比中学校

3年 望月 日菜乃

私は幼い頃、体が弱く病気がちでした。一週間に何度も高熱を出す私を、両親はほとんど毎日病院に連れていってくれました。しかし、私の両親は共働きでした。家族のために毎日朝から晩まで働いている父と母にとって、病気の私の面倒を見るのはとても苦しく大変なことでした。そのため、私は頻繁に病院併設の病児保育施設にお世話になっていました。

病児保育施設とは、何らかの理由で親が病気の子供の世話をできない場合に、看護師などに約一日子供を預け、代わりに世話を頼むことができる福祉施設の一つです。管理が行き届いていて、病状が急変したときも併設の医療機関で速やかに対応していただきました。私がここまで健康に成長し、普通の生活が送れているのも両親をはじめ、病院や施設の方々のおかげだと思います。感謝してもしきれないと日々感じています。

しかし、私が感謝すべき人は他にもたくさんいました。

この作文を書くために調べて初めて、その施設の運営費に税金が使用されていたことを知りました。また医療費も税金によって援助されていたため、急変時にも速やかな治療を受けることができたのだと気がつきました。加えて、これまで税について全くの無知であったことをとても恥ずかしく思いました。私の命はたくさんの方が必死に働いて納めた税金によって救われていたのです。もし税金がなかったら私の命は今、ここにありません。それを考えると恐ろしくなるとともに、心が温かくなります。私の家庭のように忙しくて子供の看病をできない家庭でも、税金の支援によって健康を保つことができるのです。

これは、SDGs ゴール3の「すべての人に健康と福祉を」にもつながっていると思います。私以外にも税金によって命を助けられた経験のある人がたくさんいると思います。税金を納めることで人を助けることができるのです。これを知ってから私は、買い物などで消費税を納めるたびに、どんな人助けに使われるのだろうとワクワクするようになりました。税によってSDGs が身近に感じられるのです。広い世界をより良くするための第一歩に関わることができるのです。

まだ小さな力だし、直接人助けに関わることはできないかもしれませんが。だからこそ、税金を納めている大人はカッコいい。私もいつか立派な大人になって恩返しをしたいです。そしてたくさんの人に税を通じて助け合えることを知ってほしいと思います。皆が手をさしのべ合う美しい世の中を目指して。